

小学六年

国語

解答と解説

1

問一
ウ 21

問二			
の	そ	い	お
思	れ	な	母
い	ぞ	い	さ
出	れ	自	ん
を	が	分	の
持	自	と	記
っ	分	ち	憶
て	だ	が	を
い	け	っ	ま
る	の	て	っ
こ	お	、	た
と	母	他	く
。	さ	の	持
	ん	人	っ
	と	は	て

22
23
24
25

問三
i
イ 26
ii
オ 27
iii
ア 28
問四
③
イ 29
⑤
エ 30
問五
ア
エ 31

(完答) 順不同

問六
エ 32
問七
ア 33
問八
来
な
き
や
い
い
の
に 34

問九
イ 35
問十
そ
し
て
、
一 36

2

問一
小
脳
と
大
脳 37
問二
1
エ 38
2
ウ 39
3
イ 40
問三
イ 41

		5		4		3							
⑥	①	①	①	①	①	①	①	問十	問八	問四	③	③	③
党派	熟練	工	才	才	ア	ア	工	1	短期	才	⑧	⑧	(答)
⑦	②	②	②	②	②	②	49	-----	期	-----	⑧	⑧	(答)
標準	制圧	才	ウ	ウ	ア	ア	55	記憶	ウ	問五	ア	ア	42
⑧	③	③	③	③	③	③	56	を	④	工	④	④	43
鋼鉄	片棒	ア	ウ	ウ	イ	イ	57	長	④	問六	ア	ア	43
⑨	④	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	58	期	⑤	ウ	イ	イ	46
我	降雨	イ	イ	イ	エ	エ	59	2	ウ	問九	ウ	ウ	47
⑩	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	54	海	オ	馬	エ	エ	47
疑	郵便	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	54	の	オ	の	オ	オ	44
⑥	①	①	①	①	①	①	55	体	イ	積	イ	イ	45
65	60	55	56	57	58	59	49	48	46	47	44	45	48
66	61	56	57	58	59	54	49	48	46	47	44	45	48
67	62	57	58	59	54	54	49	48	46	47	44	45	48
68	63	58	59	54	54	54	49	48	46	47	44	45	48
69	64	59	54	54	54	54	49	48	46	47	44	45	48

(配点)

① (問二) 7点、(問三) 各2点、(問四) 各3点、他各5点

② (問二) 各2点、他各5点

③④⑤ 各2点

} 計150点

【解説】

1 蒼沼洋人の「波あとが白く輝いている」（講談社）から出題しました。

震災による津波で母と祖母を亡くし、祖父と母の妹である汐里さんと三人で生活してきた七海が、汐里さんの結婚に対して素直におめでどうを言えず悩んでいる場面です。

問一 B1 理由 比較

七海が汐里さんに対して「おめでどう」という言葉を言えていないという事実自体はこの後何度も出てきますが、嬉しいと思っているにもかかわらず「おめでどう」がなぜ言えないのか、ということについて七海が語る場面はなかなか出てきません。2ページ下段から七海が（汐里さん）にかなり手伝ってもらって、料理を作り、みんなで食べる場面が始まります。その後自分の部屋にもどった場面で、「わたしはまだ心のどこかで、結婚やーめた、と汐里さんがいいだすことを期待していた」という理由がようやく明かされています。以上のことをふまえて、ウが正解となります。

問二 B2 具体化 推論

線②のひとつ前の段落を確認すると、おじいちゃん、千波さん、万帆さん、汐里さんが、それぞれ七海のお母さん（おじいちゃんからすると娘、千波さん、万帆さん、汐里さんからすると姉）の思い出を語っています。一歳で震災にあった七海は、お母さんに関する話を他の人から聞くことしかできず、自分自身が覚えてお母さんに関する記憶がないのです。このことを「いいなあ」と言っています。以上のことから、

「自分はお母さんに関する自分だけの思い出を持っていないこと」、「他の四人はそれぞれが自分だけの思い出を持っている」こと、を盛りこんでまとめましょう。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問三 B1 関係づけ 比較

適当な副詞を空らんに入れる問題です。

i 直後の「繭」は、昆虫などの卵や幼虫、さなぎなどを保護する目的で作られるやわらかい覆いのことで、多くの場合、蚕がさなぎになるときに絹糸を出して作るものを指します。以上のことから、イ「ふわっと」が入ります。

ii 汐里さんに「おめでどう」が言えないままの七海は、予想よりずっと早い時間に汐里さんが出て行ってしまったのではないかと感じ、思わず手に力が入っています。したがって、オ「ぎゅっと」が当てはまります。

iii 海をながめながら、汐里さんが姉（七海の母）について語り始める場面です。遠くを見たまましゃべるともなくしゃべり始めていることから、ア「ぼつりと」が入ります。

問四 A2 知識 比較

語句の意味を答える問題です。原則として辞書の意味に

そつたものが問題になります。辞書の意味をもとに、文章でどのように使われているのかをとらえましょう。また、知らなかった言葉は、できるだけ例文の形で覚えるようにしましょう。

③「拍子^{ひょうし}抜^ぬける」は、何かが起こるかもしれない、と構えていたところ何も起こらなかった、というような場面で「緊張^{きんぱう}が解ける、張り合いが失われる」という意味で使われる言葉です。したがって、イが正解となります。

⑤「こもつた音」は、音や声の中に閉じ込められた状態でよく聞こえない状態を指す表現です。したがって、エが正解となります。

問五

B2 理由 比較

何に対しての「うれしくなかった」なのかを確認すると、直前の「汐里さんはここにこしながら、おいしい、といつてくれたけど」を受けての表現だとわかります。作つた七海本人は、汐里さんになりに手伝ってもらつたにもかかわらずうまくいかなかった料理に納得^{なげ}していません。そのことは「なんでわたしはこんなひどいものしか作れないんだろう」という心の声にあらわれています。したがって、汐里さんがほめてくれているのは、作ってくれた七海に気を遣^{つか}つてのことだとわかります。以上のことからア・エが正解となります。イ「次にいつしよにごはんを食べられるのはいつになるのか」「ウ「手伝ってもらつたことが納得できなかった」、オ「おじいちゃん^{おじいちゃん}がものすごいスピードで食べ終えたのがいやだった」がそ

れぞれ誤っています。

問六

B1 理由 比較

——線⑥の後に「広々した海を見てみると、わたしもお母さんやおばあちゃんどこかでつながつているような感じがする」とあります。「わたし」はそれに続き、「わたしも最後に、やっぱり海が見たい気がする」と述べています。つまり、「お母さんやおばあちゃんどこかでつながつているような感じ」を、自分が町を出て行く前に最後に味わいたい、と感じているということです。これは「汐里さんが海を見に来た理由」を考える中で思い当たつた汐里さんの気持ちと重なっています。したがって、エが正解となります。ア「本当に結婚してよいかどうか」、イ「なぎ姉ちゃんへの思いを整理しておきたかった」、ウ「謝っておきたかった」がそれぞれ誤っています。

問七

B1 関係づけ 比較

⑦直前にある「結婚して外に出られるなんて最高じゃん」という発言から、汐里さんが「早く町から出たい」と考えていたことがわかります。したがって、アが正解となります。

問八

B1 関係づけ

⑧直前の「朝なんか」から、朝が来ることに否定的な表現が入るといことがわかります。朝が来るということは、汐里さんが町を出て行く日が始まってしまふ（厳密には、深夜0時の時点での日にはなっていますが）ということなのです。

これをふまえて「明日になってほしくない」と「わたし」が考えている部分を探すと、3 ページ下段に「朝なんて、来なきやいいのに」という表現が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問九 **B1** 具体化 比較

特定の登場人物について性格や人物像を問われたときは、その人物の「発言」「動作」に注目して検討していきましょう。おじいちゃんは本文の一部分にしか登場しませんから、必要な部分だけで効率よく探すことが大切です。自分はまだ生きているのに亡くなった人と同じ場所に自分の写真を飾るユーモアがあり、七海の作った料理について「味噌汁しよつべえな」とストレートに言ったり、二人が笑うに笑えないような冗談をにこりともせずと言ったり、二人が笑うに笑えないような解であるとわかります。ア「相手の機嫌を気にしてしまう」、ウ「いつでも明るさを失わない」、エ「裏表のある人物」がそれぞれ誤っています。

問十 **B1** 関係つけ

抜けている文を元の場所に戻す問題です。最初に抜けている文自体からできるだけ多くの情報を見つけたうえで、それらをもとに本文をいねいに探しましょう。抜けている文から「大学生の千波さん」が出てきていることがわかりますが、現在の千波さんは大人になっていますから、ずいぶん前に起こったことが書かれている場面を探すこととなります。さらに、「千波さん」の「も」に注目すると、この場面で大学生

の千波さんは誰かのそばにいたことがわかります。このことを意識して探すと、2 ページ上段に「震災の日、お母さんは街にいたそうだ」という文があり、その後に続く内容であることがわかります。

2 毛内抜 『頭がいい』とはどういうことか (筑摩書房) から出題しました。

「短期記憶」と「長期記憶」の違いやそれぞれに含まれる細かい内容、脳と記憶媒体の違い、海馬の果たす役割についてそれぞれ例を挙げながら丁寧に説明している文章です。

問一 **B1** 具体化 関係つけ

設問で「身体を使った運動に関係する『手続き記憶』という表現が使われていますから、まずは——線①の周辺、なければ本文の別の部分で同じ内容についてふれているところを探しましょう。——線①からはずいぶん離れています。10 ページ上段で「運動学習に関する手続き記憶」の話題が出てきており、同じ段落に「現在では、小脳と大脳皮質の連携によって記憶学習がなされていると言われています」と述べられています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問二 **B1** 関係つけ 比較

空らんにあてはまる接続詞を考える問題です。まずは接続詞そのものの働きをつかみ、前後内容との照らし合わせによってふさわしいものを選びましょう。

《 1 》の直前には、「卒業記念で、当時一万円はしたであろう一GBのフラッシュメモ리를大学から贈られて感動した」というエピソードが語られています。これに対し直後には「それから数ヵ月後には、三や五ギガが当たり前になって」と、感動したはずの一GBのフラッシュメモリの価値が相対的にずいぶん下がってしまったことが続いています。前後が逆接の関係になっていますから、エ「しかし」が入ります。

《 2 》の直前には、「場所細胞さいぼうが、海馬の主要な細胞であることがわかっています」と書かれています。直後には「海馬は、単なる短期記憶の座だけではなく空間記憶を司つかさどっていると言えます」と書かれています。同じ内容のことを別の言い方でまとめ直していることから、ウ「つまり」が入ります。

《 3 》の直前では、「アルツハイマー型認知症にんちしよ」の話が出ています。これに対して直後では、「ロンドンのタクシー運転手の例」が挙げられています。どちらも海馬の空間記憶に関する話題ですから、同じ話題が並列びんれいされていることがわかります。したがって、イ「また」が入ります。

問三 B1 具体化 比較

「単なる記録」は脳の記憶する内容ではなく、パソコンのハードディスクに収められる情報を指しています。——線②の次の段落に「私たちの記憶は、スマホのカメラのように見たもの聞いたものをそのまま覚えていくわけではありませんと書かれています。これをもとにすると、「単なる記録」は「見たもの聞いたものをそのまま覚え」るものであるとい

えます。したがって、イが正解となります。ア「タイトルや見出しをつけて」、ウ「使いやすい状態に加工して」、エ「必要なものと不要なものにわけて」がそれぞれ誤っています。

問四 B1 関係づけ 比較

③は「私たちの記憶」について述べた部分で、ここには、ある一つの情報を覚えるときそれに関連する無関係のものまで一緒に記憶される、ということが述べられています。したがって、③にはオ「連鎖的」が入ります。⑧は記憶喪失そうしになった人がよく言うセリフとして「私は誰、ここはどこ」を取り上げている部分です。したがって、ア「典型的」が入ります。

問五 B1 具体化 比較

——線④をふくむ一文の先頭には「これは当たり前のように」と書かれています。指示語をさかのぼると、「これ」は「私たちの記憶が、必要な情報だけでなくそれから連想される無関係のものまで一緒にになっている」ことを指していることがわかります。「メモリの本来の役割」とは、目的の情報を素早く取り出せるということであり、これは直後の具体例でいうと「坂本龍馬の命日」だけを的確に示すことに当たります。命日について聞いたのに、坂本龍馬について書いた小説の話が始まるのでは、ほしい情報になかなかたどりつけないことになります。これを筆者は「不具合」と表現しているわけです。以上のことから、エが正解となります。ア「メモリの容量がどんどん大きくなって」、イ「見たものや聞いたものがそのまま残されて」、ウ「客観的な数値で表すことができない」がそ

れぞれ誤っています。

問六 **B2** 理由 比較

——線⑤直前の文に「悲しいことに記憶は、思い出すたびにどんどんオリジナルなものではなくなくなってしまおうのです」とあります。したがって、思い出すとオリジナルから離れるので思い出さない方がよい、逆に思い出す回数を減らせばその分オリジナルな記憶をそのまま残せる、ということができません。したがって、ウ・オが正解となります。ア「最初のよう」に感動できなくなっていく、イ「区別がつかなくなってしまう」、エ「現在にきちんと向き合うことができるようになる」がそれぞれ誤っています。

問七 **B1** 関係づけ 比較

⑥の直前には、記憶が「いわば脳の創作物と言っても過言ではない」と書かれています。これを受け、さらに激しい主張として「⑥」という主張もあるほど」と言っています。思い出すたびに記憶が作りかえられている、という内容をより激しくしたものが入りますから、イが正解となります。また、ここでの「誤っている」は「最初の記憶とは別のものになっている」という意味であると考えられます。

問八

1 **B1** 理由 関係づけ

短期記憶の中でも繰り返し必要となったものは長期記憶へと移行し、何度でもアクセスが可能になります。このことは「記憶の固着」と説明されています。ところが、HM氏は手術

で海馬を除去したことで記憶の固着ができなくなりました。空らん前後の内容とのつながり、字数の条件を合わせて考えると、10ページ上段にある「短期記憶を長期記憶に変換」がふさわしいとわかります。
※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

2 **B1** 具体化 比較

HM氏は短期記憶を失いましたが、昔の記憶や言語の記憶については失っておらず、また手術後に身につけた身体技能も記憶からは失われていないことが説明されています。したがって、イ、エの記憶にはアクセス可能であったと考えられます。また、「HM氏の記憶は数分しか持たず」という表現から、数十秒前の会話はなんとか思い出せる範囲にあるはずで、アも正しいとわかります。同時に、数日前の記憶はなくなっているものと考えられますから、ウが正解となります。

問九 **B1** 具体化 関係づけ

筆者が「面白い」と感じているのは、タクシー運転手や医学部の学生の海馬が、仕事に従事している期間や試験期間には体積を増やし、仕事を辞めたり試験が終わったりすると元に戻る、という事象です。字数の条件や前後とのつながりを考えると、同じ段落の「海馬の体積が増える」が当てはまります。

問十 **B2** 抽象化 比較

本文の内容と合っている選択肢を答える問題です。本文の

どの部分と対応した選択肢なのかを考え、必ず本文に戻って、選択肢の内容と照らし合わせて正誤を考えましょう。アは短期記憶の説明としてふさわしくありません。イは「記憶」ではなく「(単なる)記録」として説明されている事柄ことからです。ウは「時間がたつと長期記憶に移行し」が誤っています。これに対し、エは10ページ上段に書かれている内容と合っています。

3

A1 知識 関係つけ

例文の空らんにはまる外来語を答える問題です。外来語を文脈から切り離して意味だけを覚えるのではなく、どのような場面でのような言葉とともに使われる言葉なのかを覚えておきましょう。

4

A1 知識

有名な文学作品と作者の組み合わせを答える問題です。できれば簡単なあらすじとともに覚えておくとういでしょう。